

## 執筆者紹介

Entertainment and Counter-narratives in Japanese Popular Culture

蕭 阿勤 Hsiao A-chin

ブライアン・マイヤース Brian Myers  
一九六三年生まれ。韓国東西大学准教授。北朝鮮のイデオロギーとプロパガンダ。 *Han Sorya and North Korean Literature, The Cleanest Race: How North Koreans See Themselves*

田島英一 Tajima Eiichi

一九六二年生まれ。慶應義塾大学総合政策学部教授。中国地域研究、中国市民社会論。「インボランタリーからボランタリーへ」「愛国主義」時代の中国で宗教系慈善団体が持つ意味」「弄ばれるナショナリズム」「協働体主義—中間組織が開くオルタナティブ」(共編著)

マシュー・ペニー Matthew Penny

一九七八年生まれ。コンコルディア大学助教。現代日本論。『Far from Oblivion: The Nanjing Massacre in Japanese Historical Writing for Children and Young Adults』『Exploited and Mobilized: Poverty and Work in Contemporary Manga』『War Fantasy and Reality: War as

台湾中央研究院社会学研究所研究員兼副所長。文化社会学、政治社会学、叙事社会学、民族主義研究。 *Contemporary Taiwanese Cultural Nationalism*、『回歸現実—台湾一九七〇年代の戦後世代與文化政治変遷』(第二版)『重構台湾—当代民族主義的文化政治』

張 旭東 Zhang Xudong

ニューヨーク大学教授。中国現代文学、批評理論。 *Postsocialism and Cultural Politics: China in the Last Decade of the Twentieth Century*、『全球化時代的文化認同—西方普遍主義話語の歴史批判』『我們時代的写作—對話《酒国》《生死疲劳》』

豊田周子 Toyoda Noriko

関西学院大学非常勤講師。台湾文学、中華文化圏の文学。「頼和の作品に描かれた「迷信」—小説「門閥熱」「蛇先生」を中心に」「胡志明」から「アジアの孤児」へ—その改編をめぐる」「『台湾民間文学集』故事篇にみる一九三〇年代台湾新知識人の文化創造」

中津俊樹 Nakatsu Toshiki

日本現代中国学会・アジア政経学会会員。中国現代史。「文化大革命初期の民間言説にみる「社会主義」認識について—紅衛兵と上書者の言説の比較において」「中華人民共和国建国を巡るカトリック教会・ローマ教皇庁の動向—カトリック教会・ローマ教皇庁の視点からの分析」「中華人民共和国建国初期におけるカトリック教会をめぐる動向について」「人民」の創出と「内心の自由」をめぐる」

周超 Zhou Chao

一九六六年生まれ。重慶大学法学院副教授。国際法、文化財保護法。「中日非物質文化遺産伝承人認定制度比較研究」「両部法律與阿伊努人の命運—從「北海道旧土人保護法」到「阿伊努文化振興法」」「社区參與—非物質文化遺產國際法保護的基本理念」

村上亨二 Murakami Kyoji

一九五八年生まれ。愛知大学大学院博士課程。中国外交史。

上野稔弘 Ueno Toshinori

一九六五年生まれ。東北大学東北アジア研究センター准教授。中国近現代史、中国民族史。二〇世紀末台湾におけるモンゴル承認

問題について」「漢化少数民族の識別と自治に関する一考察——一九五〇年代土家族の事例から」「民族区域自治法改正に見る中国民族法制の現状」

## 好並 晶

Yoshihumi Akira

一九六七年生まれ。近畿大学総合社会学部教養基礎教育部准教授。中国映画史・中国映画芸術研究。『中国・台湾における日本人像』（共著）『新中国の六〇年——毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』（共著）『中国映画の“食べる”行為』

## 小笠原 淳

Ogasawara Jun

一九七四年生まれ。熊本学園大学外国語学部東アジア学科講師。中国語圏の現代、同時代文学。『死者と母の郷土表象——舞鶴「拾骨」論』『再創造される現実——侯孝賢をめぐる台湾映画の諸相』『王蒙小説に見られるソヴェエト文学的表現について——オストロフスキー、ゴリキー、アイトマトフ小説との比較を中心として』

## 楊 韜

Yang Tao

名古屋大学大学院国際言語文化研究科助教。中国近現代史、メディア論。『投書欄における読者・投稿者・編集者——生活書店出版物を対象とした歴史的考察』

## 樋泉 克夫

Hizumi Katsuo

一九四七年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。華僑・華人論、京劇史。「地球規模で版図拡大する中国——水・陸・鉄・空路結ぶ計画着々」「華人」が力ぎ握る中国経済発展」「中国の「経済危機」に思う」

## 野崎 哲

Nozaki Satoshi

一九六七年生まれ。社会民主党全国連合政策審議会事務局次長。外交・防衛、原発、憲法。『憲法改正』の狙いはなにか？』『日本全国原発危険度ランキング』『脱原発アクションプログラム』

## 楊 海英

Yang Haiying

一九六四年生まれ。静岡大学人文社会科学部教授。文化人類学。『墓碑なき草原——内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』『植民地としてのモンゴル——中国の官制ナショナリズムと革命思想』『中国とモンゴルのはざま——ウランフーの実らなかつた民族自決の夢』

## 河辺 一郎

Kawabe Ichiro

一九六〇年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。国連論、日本外交論。『国連と日本』『日本外交と外務省』『国連政策』

## 翻訳者紹介

### 倉本 知明

Kuramoto Tomoki

一九八二年生まれ。文藻外語学院非常勤助教。比較文学。「愛情のユートピアから情欲と狂気のデイストピアへ」「解蔽」前後における蘇偉貞の眷村表象」「戦場におけるセクシャリティと身体」「身体的記憶が喚起する廃墟の記憶——朱天心「ハンガリー水」における眷村表象を中心に」

### 杉谷 幸太

Sugitani Kota

一九八四年生まれ。東京大学大学院、東京大学共生のための国際哲学研究センターRA。中国現代史、中国文学。「知識青年」は農村をどう描くか——李銳『厚土』と陳凱歌『黄色い大地』の比較から」「青春に悔い無し」の声はなぜ生まれれたか——「老三届」の世代意識から見た「上山下郷」運動」「知青文学中的“少女”形象」